

資料提供
広報取材依頼

情報提供日	令和4年12月9日
問い合わせ先	銀の道商工会：担当 白枝 慎吾 Tel：0854-88-2513

令和4年度 商工会青年部全国大会 表彰授与に伴う

大田市長表敬訪問の延期について

1、概 要	先般11月15日（火）第22回商工会青年部全国大会（熊本）にて、「まちづくり部門」で中国・四国ブロック代表として銀の道商工会青年部が青年部活動の取り組みが評価され会長表彰を受賞した。銀の道商工会青年部が大田市長へ訪問し受賞報告を行う。
2、開催（実施）期間	令和4年12月12日（月）→令和4年12月19日（月）
3、開催（実施）時間	16：00～16：30（時間変更無し）
4、開催（実施）場所	大田市役所
5、主 催	—
6、共 催	—
7、参加者	・銀の道商工会青年部 部長：松井紀充、副部長：河村隆弘ほか
8、行事の内容	商工会青年部全国大会の受賞報告を行う為、銀の道商工会青年部が大田市長を訪問。
9、特記事項	諸事情により、日程を変更させていただきます。 関係者の皆さまにはご迷惑をおかけしますことを、深くお詫び申し上げます。 【受賞経緯】 ・商工会青年部中四国大会（愛媛）の開催にあたり、島根県商工会青年部連合会が銀の道商工会青年部の活動を推薦。 ・当連合会会長が中四国大会にて銀の道商工会青年部の活動についてプレゼンを行い、3部門^(※)あるうちの「まちづくり部門」において9県中1位を受賞した。 ※①まちづくり部門 ②人づくり部門 ③ネットワーク部門 ・その後、各ブロックで表彰された団体が全国大会に出席し、会長から表彰を受けた。 ・イベント開催に加えて、新規起業家のサポートや道の駅の開業に貢献する等の活動が評価された。 ※活動内容については別紙参照

銀の道商工会青年部では地域の現状に対する危機意識から、従来の事業や組織を見直し課題解決に貢献できるようコロナ禍にあっても積極的に活動してきました。この活動は島根県下 21 の商工会青年部はもちろん、全国的に見ても最先端であるとして、11 月 15 日に開催された商工会青年部全国大会において中国四国地区代表として顕彰を頂きました。銀の道商工会青年部の取り組みについてご紹介します。



銀の道商工会青年部

仁摩・温泉津地区の商工業者で作る銀の道商工会の子組織。事業所の経営者、後継者、会の趣旨に賛同する 18 歳から 45 歳までの現在 20 名で活動。

<地域貢献と自己研鑽を目的とした活動>

地域の商工業の衰退に危機感を持ち「自己成長～地域の力になれる経済人集団～」をスローガンに、年間行事を大幅に見直し、既存の委員会を解体し目的別に 3 部会を設けて活動している。

1. 企業支援部会…企業マッチングや、企業の魅力や課題の再発見、改善に向けた支援活動を行う。
2. 地域活性部会…地域や主要観光施設等の魅力を発掘、発信し青年部としてのかわり方を模索する。
3. 総務部会…例会の進行や、連絡、資料の準備、メンバーウェアや名刺作成、交流事業等を行う。

取り組みを周知し、青年部自体の認知度を上げるために SNS を活用した活動内容や地域情報の発信を積極的に実施。

セミナーや研修会での学びや部員自身の実体験を基に、青年部ならではの目線で地域の活性化や、新たな仲間づくりに貢献。活動を通じて各種団体と連携することで、商工会青年部の認知向上、信頼の増進に寄与している。地域の商工業や商工会（親会）にとって、青年部がなくてはならない存在となっている。

事業を再構築していく過程や、部会運営、常任委員会などを通じて、何事にも主体性をもって取り組み、地域や事業所に帰ってもリーダーとなる人材の育成につながりました。夏祭りの運営や海神祭、イルミル、鳴砂海岸夕暮れコンサートなど地域の魅力を発信するイベントを開催することにより、地域のまちづくり交流人口を増し、若者の地域活性機運を牽引しています。

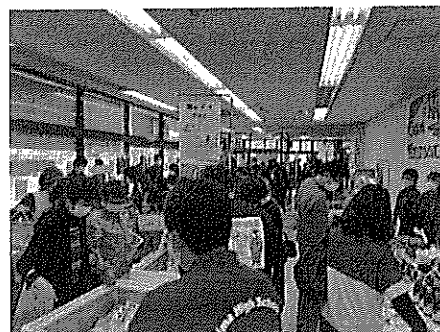


事例紹介

1. 事業未経験者のゲストハウス創業を支援。事業計画や創業イメージの具体化等に部員の創業経験や多業種の視点を生かし貢献。無事「ゲストハウスふくや」を創業し、創業者は青年部に入部。



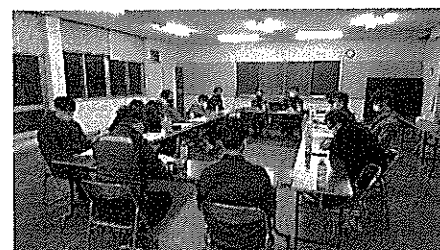
2. 実習先を探す地元県立高校（邇摩高等学校）とショッピングセンター（ビーバード）をマッチングし、「銀の鳥プロジェクト」と銘打ち、空きテナントでの高校生によるお弁当や加工品の販売イベントを実現。企画から運営まで青年部がフルサポートし、コロナ禍での一大イベントとなる。高校生目線による店舗見直しアイデアもショッピングセンターに提案。立地が近いものの接点がなかった両者を青年部が結び付け、今後の可能性を大きく広げた。



3. 後継者として旅館に飲食部門を創設した部員事業所で、帰郷間もない部員に取り扱う食材の取引先を提案。なかのや旅館の新メニュー開発に貢献した。



4. 道の駅ごいせ仁摩の新規開業にあたり市や運営会社と計画段階から幾度も話し合いを持ち、地域発信の拠点施設となるよう貢献した。オープニングイベントを青年部で企画（実施直前で感染症拡大により残念ながら中止）。



5. 市指定管理の地域を代表する観光施設、仁摩サンドミュージアムの魅力アップのため、現地視察やスタッフとのディスカッションなどを実施。来館者の増や満足度の向上に向け、サインやコンテンツの改良などを提案した。この取り組みの中で施設の Instagram アカウント開設を実現した。

